令和７年度　一般選抜（後期日程）　文教育学部人文科学科　小論文試験　解答の要点

・文教育学部人文科学科（後期）解答の要点（令和７年度学部後期日程文教育学部人文科学科選抜試験）

英文読解として筆者の問題提起が読み取れており、それに対する自分の考えがバランスよくかけていることが重要である。

筆者は、近東・中東という地域の概念の曖昧さを例にしつつ、19 世紀におけるヨーロッパ中心的な世界観が、East（一部 Orient と言う語彙も用いる）という地理概念に投射された経緯・認識枠組みを批判的にとらえている。こうした近代西欧（西洋）にとっての（存在論的）対立相手としての「東方」（オリエント）が、空間地理的な範囲ではなく、心象地理・世界認識（地政学）と関わっている点をまとめられているか、講評する。筆者のこうした問題意識を理解したうえで、より抽象的に、自己中心的な眼差しに基づく他者認識のゆがみの構造や認識論の問題としてまとめることも可能である。

このような筆者の問題提起に対して、西洋の視座から（ある意味一方的に）決められた（中近東などの地域にかんする）概念の曖昧さなどへの批判見解を、例を挙げて論じることになる。近代の西欧（西洋）による他者認識のゆがみそのものについて（つまり東方・東洋にとどまらない）、議論することも歓迎される。

このほか、敷衍して他者認識問題を論じることも評価の対象となる（日本の事例なども可）。つまり、自己中心的な主体が、他者をゆがめて理解する認識構造にかかわる議論である。

批判的かつ説得的な議論を展開できているか、とくに例とした事象と議論が整合的かつ説得的か、などが評価の対象として重視される。